

平成29年産 大豆エンレイ栽培こよみ

アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

【目標】 単収200kg/10a 1~3等比率向上 経営所得安定対策で所得アップ!!

月別	4月	5月	6月		7月			8月			9月			10月		11月	
旬別		下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	
主な作業	<p>播種 出芽・苗立 生育期 開花始め 着莢始め 莢伸長期 子実肥大期 黄葉期 落葉・成熟期</p> <p>基幹排水 H2O2 施肥 耕起・整地 除草剤散布</p> <p>1回目培土 播種20~25日後 (本葉2~3葉期)</p> <p>2回目培土 播種30~35日後 (本葉4~5葉期)</p> <p>防除(随時) ウコンノメイガ 1葉巻が見られたら防除 1株に6個以上の</p> <p>基本防除 (1回目) (2回目)</p> <p>雑草の抜き取り タネ類等大きな雑草や青立株を除去</p> <p>収穫 適期収穫で、しわ粒や汚損粒にしない 子実水分22%を切ったら収穫開始</p> <p>次年度作付場の準備</p>																
	<p>栽培のポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> ①排水対策を徹底 ②石灰質資材・堆肥等の積極的施用 ③栽植株本数 14,000 ~ 16,000 本/10a の確保 ④晴れ間を逃さず2回培土の実施 ⑤病害虫防除の徹底 ⑥開花後~9月上旬の水分不足時は畦間かん水 ⑦子実水分 22%を切ったら刈取り開始 <p>畦間かん水 開花期以降晴天が続いたら実施</p>																

① 早期排水対策

①水口はしっかり止める ②額縁排水溝は早めに設置する ③排水口は深く掘り下げる

④サブソイラなどによる心土破碎 ⑤播種直後に基幹排水溝を設置 ⑥排水溝は確実に連結

排水性を改善し、砕土率を向上!

- ・発芽・苗立ちが良くなる
- ・根量が増え、根粒菌も増える
- ・除草剤の効果が十分に得られる



② 土づくりと施肥

- 大豆栽培に適するpH6.0~6.5を目標に必ず石灰質資材を施用する。
- 地力の低下を補うため、発酵鶏ふんを施用する。

10a当たり施肥量		
資材名等	側条施肥	全層施肥
粒状貝化石	150~200kg	
発酵鶏ふん	100~200kg	
BB084 (N:P:K=10:18:24)	普通田 20kg	30kg
	砂壤土、低地力田 30kg	40kg
	麦跡 上記+硫安10kg	

③ 種子消毒 (病害虫防除の徹底)

対象病害虫	使用薬剤	処理方法
フタスジヒメハムシ アブラムシ類 タネバエ ネキリムシ類 茎疫病菌 黒根腐病 紫斑病	クーラーMAXX	塗沫処理 乾燥種子 1kg当たり 原液8ml



④ 適正な播種作業で、苗立本数を確保

一連の作業は圃場が乾いた状態で、好天日に一気にやる。

※作業手順 (施肥同時播種の場合)



◎適正栽植株本数の確保
目皿とスプロケットの組合せを確認し、適正播種量を入れる
播種直後に基幹排水溝と額縁排水溝をつなぎ、排水を促進!

【播種量の目安】 条間80cm エンレイ大粒種子 (百粒重34.2gの場合)

目皿	播種時期	播種量目安 (kg/10a)	目標栽植株本数 (本/10a)	スプロケット	
				目皿側	車輪側
B-2	5月下旬~6月上旬	5.3~6.1	14,000~16,000	10	14
	6月中旬~(麦跡等)	6.1~6.8	16,000~18,000	9	14
B-22	6月上旬~6月中旬	6.8	18,000	13	11

※B-22使用の場合は、圃場条件により播種量が増加します。

⑤ 雑草防除(除草剤散布)

散布時期	対象雑草	薬剤名	10aあたり散布量
播種後出芽前	一年生雑草	ラクサー乳剤	400~600ml (水100ℓで希釈)
播種後発芽前	一年生雑草 〔ツルクサ、カヤツリグサ、キク・アブラナ科を除く〕	トレファノサイド乳剤	200~300ml (水100ℓで希釈)
	一年生雑草	トレファノサイド粒剤2.5	4~6kg
雑草生育期 (イネ科雑草の3~10葉期) (収穫30日前まで)	一年生雑草	サターンバアロ粒剤	4~6kg
	一年生雑草	サターンバアロ乳剤	600~800ml (水100ℓで希釈)
大豆2葉期~開花前 (収穫45日前まで)	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	ポルトフロアブル	200~300ml (水100ℓで希釈)
大豆5葉期~雑草生育期 (畦間・株間処理) (収穫28日前まで)	一年生雑草 (イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	100~150ml (水100ℓで希釈)
雑草生育期 (畦間処理) (収穫28日前まで)	一年生雑草	バスタ液剤	300~500ml (水100~150ℓで希釈)
	一年生雑草	ザクサ液剤	300~500ml (水100~150ℓで希釈)

帰化雑草の圃場への侵入を防止

圃場周辺での早期発見に努め、開花・結実前に除去しましょう。



⑥ 的確な培土

晴れ間を逃さず確実に2回の培土を行い、根域を拡大し、湿害を回避する。

培土の効果 培土は一石四鳥

- ①排水の促進と湿害の防止
- ②根量と根粒菌の増加
- ③雑草の抑制
- ④倒伏の防止

2回目: 播種30~35日後 (本葉4~5葉期) 初生葉が隠れる程度
1回目: 播種20~25日後 (本葉2~3葉期) 子葉が隠れる程度

⑦ 畦間かん水

- ・開花期から9月上旬は、土壌の乾き具合に応じて適時かん水する。
- ・3日間以上晴天が続き、土が乾いたらかん水する。
- ・圃場全体に水が行き届いたら水口を止め、速やかに排水する。



⑧ 病害虫防除

農業使用基準を守りましょう。

防除時期	対象病害虫	薬剤名	10a当たり散布量	
基本防除	8月上旬	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ	スミチオン ヘルコート粉剤DL	3kg/10a
		紫斑病 カメムシ類 アブラムシ類	Zポルドートレボン粉剤DL	4kg/10a
	8月下旬	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ等	マネージDF ダントツフロアブル	3000倍 150ℓ 2500倍 150ℓ
		紫斑病 カメムシ類	アミスタートレボンSE	1000倍 150ℓ
随時防除	7月下旬~ 8月上旬	ウコンノメイガ	サイアノックス粉剤 プレバソフロアブル5	4kg/10a 4000倍 150ℓ
	8月下旬~ 9月中旬	ハスモンヨトウ	トレボン粉剤DL トレボン乳剤	4kg/10a 1000倍 150ℓ

⑨ 収穫作業

- ◎青立ち株や大きな雑草は事前に抜き取っておく。
- ◎子実水分22%を切ったら収穫開始する。
- ◎露がなくなつてから刈取る。(午前10時~午後4時まで)
- ◎刈取り高さは地際から10cm以上とし、土を掻き込まない。
- ◎汚損粒は絶対に出さない。(土や草汁が主な原因!)



⑩ 次年度大豆作付圃場の準備

- ・額縁排水溝の設置や心土破碎を行う。
- ・緑肥作物の作付により地力増進を図る。
- ・連作を避け、団地化を進める。



大豆の乾燥・調製施設を利用しましょう。

立山大豆共同乾燥施設 463-6048 滑川大豆共同乾燥施設 471-2403
※乾燥施設を利用される場合は、計画的な受入れのため、事前にお問合わせください。

※安全安心な大豆を生産・販売するために、『生産記録簿』は全て記入して、各営農センターへ提出して下さい。